

本年度の「全国伝統的建造物群保存地区協議会 関東甲信越ブロック会議・担当者研修会」が、十月二十一日から二十二日まで、千葉県香取市・佐原の重伝建地区で開催されました。

佐原は利根川支流の小野川の両岸に形成された商家の町並みが美しい地区で、小野川を水運として発展した風景がよく残されています。

佐原は、江戸時代に日本中を歩いて測量し、驚くほど正確な日本地図を作成した伊能忠敬の住まいした地としてもよく知られており、伊能忠敬旧宅は昭和五年に国史跡の指定を受けています。また、昨年の六月には、「伊能忠敬関係資料」二三四五点が国宝に指定されました。伊能忠敬旧宅は、伝建地区内に所在しており、近くには関係資料を展示・公開している伊能忠敬記念館もあります。

例年このブロック会議・研修会は、七月頃に開催していますが、三月十一日の震災により佐原も大きな被害を受け、当初の予定通りの七月では開催できませんでしたが、震災後の復興の様子を研修会の内容として開催されました。



佐原を代表する水郷風景。

全国伝統的建造物群保存地区協議会

関東甲信越ブロック会議・担当者研修会について

於 千葉県香取市・佐原伝統的建造物群保存地区

香取市佐原（商家町）

所在地	千葉県香取市佐原字上川岸、本上川岸、本川岸、新橋本、下分、横宿、下宿、中宿、下新町、若松町、本橋元、上仲町、及び田宿の一部
種別	商家町
条例制定年月日	平成六年 四月 一日
選定年月日	平成八年二月一〇日
地区面積	約七・一ヘクタール
保存物件数	建築物 七五件 工作物 三件 環境物件 一件

香取市は関東平野を流れる利根川の下流域に位置しています。江戸時代から始まる新田開発では、周辺一帯が穀倉地帯に変化したため、佐原に穀物を始めとした物資が集まるようになり、米を原料とした酒・しょうゆなど醸造業が盛んになりました。

利根川支流の小野川沿いと、これに交差する街道沿いに商家が建ち並び、川沿いには問屋や醸造業、街道沿いには呉服や日常雑貨を取り扱う小売店など、通りによって商業形態が区分けされつつ町並みが形成されていきました。

平成三年には「小野川と佐原の町並みを考える会」が結成され、町並みの案内や清掃活動、広報活動などが、その後の伝建地区選定の大きな力となりました。

研修には八県十二市町村から三十一名の参加があり、初日の二十一日は、伝建地区内にある佐原町並み交流館で、「三月十一日発生東日本大震災による香取市内の被害状況」と、「佐原町屋の構造的な性能解明の取り組みについて」という二つの報告が、香取市建設部都市計画課（伝建担当課）と佐原町屋研究会からあり、その報告を受けるかたちで「伝建木造建築の構造的な性能と耐震性について」という講演が、東京大学生産技術研究所・腰原先生からありました。

上条集落とは異なる町屋建築についてでしたが、非常に示唆に富んだ内容でした。現在保存されている建物を耐震化するうえで、必要不可欠なのは建物そのものの強度がどれほどあるかを実験などにより知っておくこと、耐震対策を講じる際には、建物の意匠に組み込むことで違和感が薄れること、伝統的な工法ばかりに目を向けてしまうと、技術的には停滞を招いてしまうことなど、改めて意識しなければならぬ点がたくさんありました。

研修終了後は伝建地区内にある旅館に移動し、情報交換を兼ねた懇親会が開催され、夜遅くまで様々な話題で盛り上がっていました。



文化庁からは昨年度に引き続き下関調査官が来ました。



伝建地区内の建物被害の状況と、修理の方法について、担当者から説明がありました。



正上醤油店。地震で屋根の瓦のほとんどが落下する被害がありました。今はこのように修理されました。



街道沿いの建物。青と緑のシートに挟まれた2棟は震災前に保存修理を行っており、被害はありませんでした。



国史跡・伊能忠敬旧宅も被害を受けており、現在建物内の見学はできません。



香取市役所庁舎。建物に大きな被害はありませんが、駐車場は液状化で波打っています。



市役所隣の福祉センター。液状化で外構が沈下しています。



市役所の側壁面。アスファルト通路は、本来は白い点線の高さでした。



小さな河川。矢印のように川に引っ張られ沈下し、河床は逆に隆起しました。



小河川の橋は、川方向に両岸が引っ張られたため、中央が折れています。

二十二日は現地視察です。
三月十一日の震災では、香取市の広い範囲が被災しました。もともと利根川流域の地盤が緩い地域のため、液状化による地盤沈下が著しく、最大で八〇センチも沈んだそうです。
市役所の駐車場は波打っている状態で、建物に沿って設けられた植栽も、沈んだ駐車場の高さまで落ちていきます。地震の最中に撮影されたビデオでは、駐車場

のいたるところで液状化による噴砂が起こり、水道管が破裂したと思っただけです。
河川の両岸は、「川方面に引っ張られる」力が生じたため引き裂かれながら沈下し、引っ張られた土砂は逃げ場を求めて河床を隆起させました。
震災のニュースでは東北の被害しか聞こえてきませんが、関東にまで及んだ被災地の広さに、ただ驚く

佐原には江戸時代の建物だけではなく、町並みの中には下の写真のような洋館も数多く点在しており、バラエティ豊かな伝建地区です。
定期的に見学して、復興する様子を観察してみたいと思いました。

